

市場性

気候と土壌

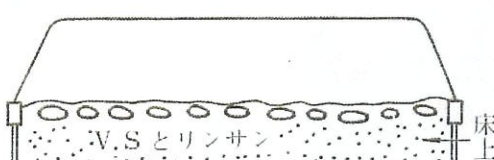
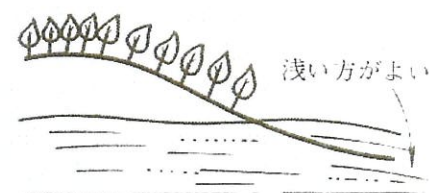
V・S₃₄ 及び V・S 堆肥が何故よいか

V・S₃₄ 及びV・S堆肥は線虫、モンパ・土壌病原菌に対し猛烈な抵抗力を発揮する

用法

主食の代用としてより最近では青果物として、取扱われ、品型、色彩、糖度が重要視されてきました。気候は高温である方が理想的で20℃以下では、いもの肥大は行われず。土壌は他作物の栽培不能な土地でも栽培出来るが、排水のよい肥沃地（堆肥含量の多い）の方が品質、収量共に断然まします。いもの適性酸度は5.5～6.8位で、肥料は加里、燐酸、窒素の順位であって、発育の旺盛な作物だけに相当地力（理、化、生）が無いと満足な結果は見られません。いものに施肥は不必要と言われていたむきもありますがそれは誤りです。V・S₃₄とV・S堆肥の施用は加里を流亡させませんから根の活性度が高く、燐酸はキレート作用により完全な可給態になり、また窒素と同様に最後まで無駄なく吸収されますから、質量共に抜群の効果を発揮します。パーミキュライトの加里吸着能力と、培養されておる土壌有用微生物群の相乗効果が発揮されます。

本来土壌肥沃度とは生物的に有用土壌微生物群の密度の濃密を云ふべきでV・S₃₄施用により根圏に放線菌群他細菌群を増殖させB/Fのバランスをよりよくすることによって、耕種的防除力を強力に発揮する。連作地に於けるモンパ発生常習地帯には、V・S₃₄、V・S堆肥、V・Sトリコの施用が効果抜群である。土壌微生物剤ですから、特に施用後の経過時間をよく守って、伏床、定植をすること。

温床・床土に必ずV・Sを	本圃植付け（10アール）	紫紋羽病対策（10アール）	葉面散布剤力の応用
<p>床面3.3㎡ 当りV・S 1k 〃 〃 カリンサン 300k 床土にまぜて、かん水して5日目に種芋伏込発根力抜群</p>  <p>苗の硬化、苗とり4～5日前に力は水0.18ℓ 3.3㎡に散布して下さい</p>	<p>V・S堆肥 1000k～2000k V・S₃₄植溝に必ず7～10袋 水溶性リンサン20%増肥1袋 畦の上に散布して浅く打込む（15日）以上待肥して定植</p>  <p>浅い方がよい</p>	<p>左記の施用以外にV・Sトリコを併用します。</p> <p>①元肥にV・Sトリコ6袋 米ぬか30k～60k 植溝に散布、10日以上おきます。</p> <p>②土よせの時に散布して、土よせします。基部にふれない様に。</p>	<p>①苗の硬化処理 ②つるの出来すぎ ※堆肥が未熟な場合はV・Sとまぜて、マルチする。</p>

古いパンフレットです。